

黄色のキャンディー

～性による色の区別を通して「自分らしさ」について考える～（自分らしさ）

ねらい

日常生活のさまざまな場面で、女の子の色、男の子の色と性による色の区別があるが、それは植え付けられた固定的な概念であることに気づき、固定的な概念にとらわれず好きな色を自分で決めることが大切であると気づく。

すすめ方

学 習 活 動 と 内 容	留 意 点
1. 「黄色のキャンディー」を読んで話し合う。（資料1） ○はなちゃんは、女の子かな、男の子かな。 ○どうしてそう思うの？ ○じゃ、タロくんは？	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことをどう言うかや、話しかたで男女の区別をしていることに気づかせる。
2. 「黄色」は男女どちらの色なのか、話し合う。 ○黄色は、男・女どっちの色だと思いますか。 ○色に女色、男色ってあるのかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・両方の色という視点も示す。
3. 色は男女で決まっているのかどうか、考える。 ○女色、男色はあるのか、黄色は男の色なのか、女の色なのか、本当はどうなのか、みなさんの持ち物の色を調べてみましょう。（ワークシート1） ○みんなの持ち物の色を見て、気のついたことを言いましょう。 ○みんなの持ち物の中で、色の種類が少ない物があるんだけど。 ○みんなの持っているランドセルはみんなが選んだのですか。 ○みんなが選んだのではない色の物はありますか。 ○みんなが自分の持ち物を選んだとき、どうしてその色にしたのですか。 ○黄色は、だれの色でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドセル、ズック袋、かさ、長靴、体育袋、手提げ袋、洋服など、いろいろな持ち物で調べる。 ・持ち物に色の偏りがあるかどうかを考える。 ・ランドセルは固定概念が顕著に表れているので、取り上げたい。 ・親や回りの人、売り場の影響を受けていることに気づかせる。 ・自分の意に反して決められていることがあることに気づかせ、性による色の区別は、個人の選択の幅を狭くしていることに気づかせる。 ・自分が好きな色だから選んだという経験を出させる。 ・始めの問いを振り返らせる。
4. 今日の勉強の振りかえり（感想）を書きましょう。	

留意点

この授業の前後に「もうなかない」（丘 修三作 教育画劇）（黒いランドセルを選んだ女の子の話）の読み聞かせを行うとなお、一層効果的。

出典

『じえんだあ・ふりいBOX』（大阪府同和教育研究協議会編）より

資料1

黄色のキャンディー

「はなちゃん、いっしょにキャンディー食べよう。」

「ふたりでわけましょ。タロくん。」

「青いキャンディーは、ぼくのだよ。」

「赤いキャンディーは、わたしのよ。」

「じゃあ、黄色のキャンディーは？」

「黄色は、男の子の色だよ。ぼくのぼうしは、黄色だよ。」

「黄色は、女の子の色。だってママのエプロンの色よ。」



ワークシート1

ランドセル…

上ぐつぶくろ…

か さ…

下 ぐ つ…

習字道具入れ…

絵の具入れ…

洋 服…

手さげぶくろ…

